

コスモス 7月号

第70巻 第7号

◆宮柊二カレンダー(40) 七月の歌

砲の音と錯覚したり七月某日海側のかたに遠
花火あがる
歌集『晩夏』

昭和二十三年の七月のある夜、作者は遠くの空にあがる花火の音を聞き、その音を砲の音と錯覚した。「砲の音と錯覚したり」という二句切れは、一瞬の動揺を伝えているよう。戦場で聞いた、砲声、迫撃砲の音、跳弾の音をつぶさに詠んだことにより、それらの音は生々しく心に残ることになった。

戦闘の辛い記憶がよみがえったであろうこの時、闇にひらく遠花火は美しかったのか。「錯覚」したことをあえて詠み残した作者の戦後の孤独を思い、「錯覚」の後の心情を思う。(斉藤 梢)